

Ⅲ 研究の内容

1 研究主題に対する基本的な考え方

(1) 「学ぶ側に立った」とは

「教師主導型の教え込み」から「学習主体者としての生徒の立場の尊重」という授業観に立ち、生徒一人一人が興味・関心に応じて、その生徒一人一人の能力のもとで、意欲的に進められる姿ととらえた。従来の教師主導型にみられる「～を理解させる」「わからせる」という授業から、生徒を「いかに育てるか」という授業に転換することである。このことを通して、「聞いた」「聞いてわかった」という喜びを生徒一人一人が味わうことができ、英語を「もっと聞いてみたい」、さらに「内容に回答したい」という欲求がわきでてくることを期待することができる考えた。

(2) 「段階的なリスニングの指導」とは

話し手と聞き手がいる双方向のコミュニケーションの中で、聞き取りのプロセスを見てみると、四つの段階があると考えられる。情意、知識・理解、教師の支援の三つの観点に分けて、段階分けをしたのが次の表である。

4段階	さらに聞いてみたい	積極的に聞こうとする態度がある	新たな知識、情報を得る	聞く力に応じた課題に取り組み (ワークシートやビデオ教材の活用)	より高度な聞き取りに挑戦する機会をもつ
3段階	聞いてわかるようとする	習得意欲や上達意欲をもつ	キーワードを聞き取り、内容を理解する		リスニング・テクニクを学ぶ
2段階	聞いてみようとする	やる気をもつ	リズム、イントネーションに慣れ親しむ		既習の言語材料を使った身近な話題を聞く
1段階	聞こうとする	興味・関心をもつ	音素の識別ができる		心理的な抵抗のない場で学習できる
聞き取りのプロセス		情意面	知識・理解面		教師の支援

それぞれの四つの段階は、互いに独立したものではなく、相互に関連した連続的な活動であって、いずれが欠けても十分なコミュニケーションを行うことができない。リスニングをコミュニケーションの中核のひとつとして考えると、1授業時間内で、四つの段階を全て含む活動を与えることが望ましいが、全てを補うのは難しい。学年ごと、学期ごと、月ごとの目標をもって、計画的に、継続的に進めることが必要である。最後の段階で適切な目標が得られない場合には、前の段階にさかのぼって、適切な指導を施さなければならない。この考えを指導過程に取り入れたものを「段階的なリスニングの指導」ととらえた。